

ナメが終わると林道に出た。阿部割沢左岸の開拓地からのびてきている林道である。この先ナメがあり、F5、F6と滝を2つ越えると二俣となった。ここに取水用の堰堤があった。右に入る。すぐまた取水用の堰堤がある。この先所々にナメが出てくるが、次第に落葉に埋もれた沢となり、水も溜れてくる。水がなくなるまでつめてから10分程ヤブをこぐと712m三角点のあるピークへと出た。(1)

[タイム] 阿部割沢出合(12:30)→林道(13:10)→沢終了(14:05)

楡山沢

1983年7月9日

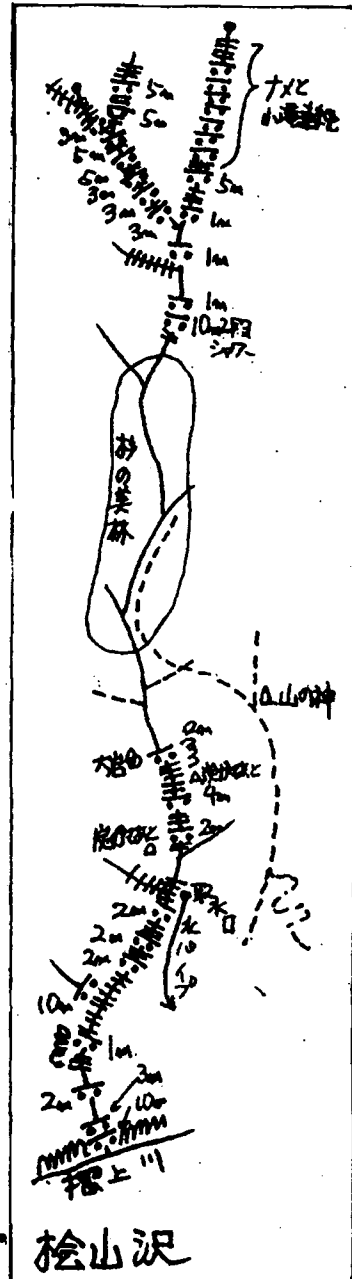
L1

この1週間雨の降らない日はなく、楡上川本流は相当に増水していた。楡山沢に取り付くにはどうしても渡渉しなければならない。かなり早い流れなので、流木を支柱にしながら川の中に入る。深さは最大股下であった。私にとり、この程度の渡渉はさほど苦になるものでもなかったが、沢登りは今日が初めてという佐藤さんは相当に面喰らったようである。

すぐに遊歩開始。樹林帯を流れる薄暗い沢で、小滝とナメが続く。小滝といっても2m程度のものなので登るにほとんど苦労はいらない。30分程歩くと、左岸に水を引くホースが出てきた。茂庭地区の農地の多くは、農業用水をかなり離れた沢から引いてきている。ここのもそうしたものの1つだろう。更に10分程歩いた所に小さな取水口があった。

沢はなおも小滝とナメが続く。4mの滝はシャワーで突破したが、ホールドが少なく苦しかった。このすぐ先、右岸に大きな岩がある所を越えると沢は平凡となった。

一帯はいつしか杉の美林に変わっている。支沢の中流域に農地(その大部分は放棄されている)や、植林地が存在していることも茂庭地域の特徴の1つである。

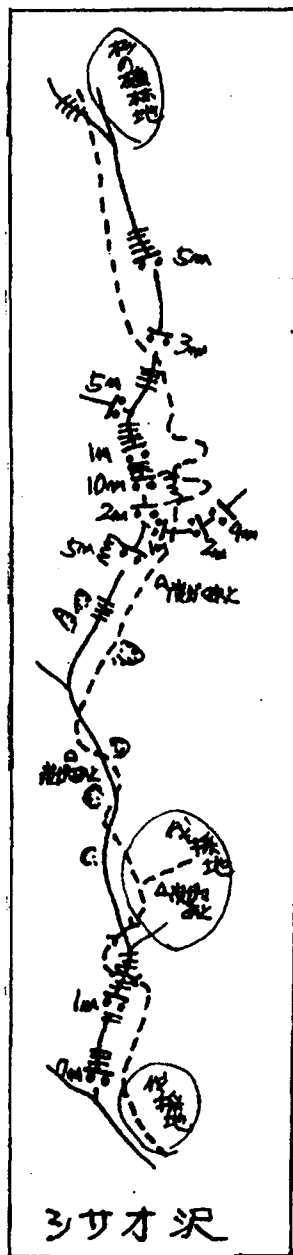


この地域では支沢の中流域が比較的平坦となることを昔の人はよく知っており、自分の家からかなり離れているにもかかわらず、農地をひらき、杉や松の苗を植えたものだろう。

「まだ水量があるからもう少し先に行ってから引き返そう」と思い、なおも先に進む。と、10m 2段の出できた。ホールドも比較的多く、シャワーで直登する。この先ナメと小滝が連なる。支沢の1本についても帰りがけにちょっと偵察してみたが、こちらの方も同様である。快速に登り詰め、10:40遡行終了。松山沢の源は音をたてて湧きだす大量の清水であった。

(記・)

[タイム] 出合(8:05)→遡行終了(10:40)



シサオ沢

シサオ沢

1983年6月11日

増沢バス停から鱒沢ぞいの林道を歩いてゆく。この林道は現在盛んに延長工事が行なわれている。

13:15砂子沢出合を通過。沢はまだ平凡なままなので、左岸につけられた踏跡を利用してスピードアップを図る。13:20左下の流れに滝がかかっているのが見えてきた。これを見逃す手はあるまいと、下に降りてわらじをつける。

7m程の斜瀑である。ホールドも結構多く、右岸を直登する。上部はシャワークライムとなった。

上に出て少し進むと沢は平凡になる。30分程歩いても変化がないので、また上に上がって踏跡でも利用しようかと考えていたら、滝が出てきた。5m程で右岸を直登。その上にももう1つ10mの滝。これはホールドも少ない。右岸から取り付き、小さなスタンスと、あまり当てにならない枯木、ブッシュを利用しながら登りきる。この上はまた平凡となった。

14:10パラパラと木々の葉を打つ雨音が聞こえてきた。すごい夕立である。雷も鳴っている。みる間にズブぬれと